

【富士宮市】

校務DX計画

1 目的と方向性

(1) 働き方改革の観点

- ・汎用のクラウドツールの積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を実現する。
- ・校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一体化を組み合わせることで、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とする。

(2) データ連携の観点

- ・校務系・学習系システムを円滑に接続させることにより、それぞれのシステムが持つデータを低コスト・リアルタイムで連携させることを可能とする。
- ・データ連携が容易となることを踏まえ、各種データをダッシュボード機能により統合的に可視化し、学校経営・学習指導・教育政策の高度化を図ることを可能とする。

(3) レジリエンスの観点

- ・学校の業務に関する主要なシステムをクラウド化することにより、大規模災害等が起きた場合にも業務の継続性の確保を可能とする。

2 現状と課題

(1) 働き方改革の観点

○校務支援システムの使用は校内に限定されているが、その他については、クラウド環境が整備され、ロケーションフリーで校務系・学習系システムに接続が可能となった。それに伴い、教職員の事情に合わせた働き方の選択肢が増えた。

- 依然、紙ベースが主流となっている業務が残存している。
- 汎用のクラウドツールと校務支援システムにおいて教職員間の情報交換が可能となっているが、使用区分が不明確な面もある。また、学校ごとにクラウドツールと校務支援システムの運用方法が異なり、異動した際に会議で使用するソフトが異なるなどの負担が生じている。

(2) データ連携の観点

○校務用パソコンから校務系システムと学習系システムに接続できる環境が整備され、データ連携が容易となった。

- 学校ごとにカスタマイズされている帳票類があり、標準化が必要である。
- 教育行政系と校務系システムが異なるため、さらなる連携が求められる。

- 学校データを教育行政向けに可視化するインターフェイスを整備する必要がある。

(3) レジリエンスの観点

- クラウド環境下の校務については、災害発生後の影響は少なく、児童生徒の安否や健康状態の確認、学習支援、分掌業務などを安全時実施できる。

3 課題解決策と将来像

(1) 次世代の校務 DX に関わるガイドライン的文書の策定

- ・市独自で統一可能な公簿等の見直し、押印の廃止の推進
- ・校務支援システムで取り扱うべき業務と、校務系クラウドツールで取り扱う業務の区分け
- ・ガイドライン的文書の逐次適切な修正・見直しや追加方式でアップデートが必要

(2) 過渡的な取組

- ・汎用のクラウドツールを活用した教職員間での情報交換（朝礼、集会等のオンライン化や、職員会議等のチャット、掲示板機能を活用した情報共有、クラウド上の共同編集機能を活用した各種書類の共同作成等）の積極的な推進が必要
- ・汎用のクラウドツールを活用した会議資料のペーパレス化、スケジュール管理のオンライン化等の推進
- ・校務支援システムのクラウド化による働き方改革の推進
- ・保護者への連絡・情報交換におけるクラウドツールの一層の活用
- ・これらの取組を全ての教職員が十全に行えるようにするための校務用端末の整備
- ・これらの取組を可能とするための情報セキュリティポリシーの改訂と運用ルールの策定
- ・業務のペーパレス化や押印廃止等を可能とする文書規則等の見直しと改訂の推進

(3) モデル校の実証研究

- ・紙ベースが主流となっている業務フローの見直しや、クラウド環境や校務支援システム、生成 AI 等を活用した、教職員の負担軽減を目指すモデルケースの創出が必要
- ・効果検証や事例の周知
- ・教育委員会やシステム事業者との丁寧な情報提供とアップデート
- ・必要に応じて、民間企業と連携

参照資料

- ・文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務 DX について」
- ・文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づいた自己点検結果